

国立大学法人千葉大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きを目指す未来志向型大学として、たゆみない挑戦をし続けることを基本理念とし、普遍的な教養（真善美）と専門的な知識・技術・技能等を備えた人材の育成、現代的課題に応える創造的・独創的研究の展開を推進している。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、先進科学センター及び関連学部等が連携協力し「飛び入学制度」の拡大・充実を図るとともに、「先進科学セミナー」を開講し入学当初から少人数のゼミ形式の教育を行うなど、教育の質の向上に向けた取組が行われている。

研究については、千葉県等の地方自治体、財団法人かずさ DNA 研究所、独立行政法人放射線医学総合研究所等との連携が進められ、学際的かつ先端的複合研究を積極的に推進している。

社会連携・国際交流等については、教育学部による「地域住民や学校を中心とした救急蘇生、一次処置のための解説講演」等、各部局の特性を活かした様々な地域貢献プロジェクトを実施し、地域における保健、医療、福祉サービスの質的向上に努めている。

業務運営については、部局長及び学生との懇談会での意見等も踏まえつつ、教育研究基盤設備充実経費、教育研究環境等整備経費等、全学的な視点から学長裁量経費を重点的に配分するとともに、平成 18 年度より、学術推進企画室において、学長裁量経費が効果的に配分されていたかを検証・評価し、次年度に反映させる仕組みを構築している。

財務内容については、平成 18 年度に学生、留学生の支援や教育研究環境の整備を推進するために「千葉大学基金」（平成 19 年 6 月からは「千葉大学 SEEDS 基金」へ名称変更）を設置し、「広報・募金活動に関する懇談会」の開催及び基金担当の副理事を民間から任命するなど、積極的な基金活動を展開している。

その他業務運営については、インドネシア・ジャワ島地震の際、交流協定校への調査団の派遣及び救済支援を行ったことを契機に、医師、看護師、広報・情報、自然災害、建物被害、NBC（核兵器、生物兵器、化学兵器）災害の関連分野の専門家で構成する災害調査団を学内に組織し、大規模災害等の調査等に協力する体制を整備している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、2項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

- 中期計画「各学部は、一般選抜の他、その特性に応じた AO・推薦入学、飛び入学、社会人・帰国子女の受入れ、3年次編入学等の実施を検討し、新たな選抜方法の導入及び改善を行う」について、飛び入学制度の拡充及び入試方法の改善、千葉県内の現役高校生を対象とした地域枠 AO 入試の導入等、各学部の特性に応じた新たな選抜方法の導入や選抜方法の改善が行われていることは、多様な学生の受入れのための工夫がなされている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「看護学部附属看護実践研究指導センターは、全国共同利用施設として看護師等の継続教育及び看護学教員の FD 支援を充実させるため、より効果的な研修内容及び実施方法等を検討し、改善する」について、看護管理者講習会、看護学教育指導者研修、国公立大学病院副看護部長研修等を、研修内容・実施方法等の改善を図りながら実施し、看護師等の継続教育及び看護学教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）支援を推進したことにより、研修に参加した看護学教員の指導方法の改善等につながったことは、看護学教育の質の向上に貢献している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「先進科学プログラム（飛び入学による教育課程）実施学部は、先進科学教育センター及び関連学部等と連携協力するとともに、全学の意見を聴取しつつ、教育の質の向上を図る」について、先進科学センター及び関連学部等が連携協力し、「飛び入学制度」の拡大・充実を図るとともに、「先進科学セミナー」を開講し、入学当初から少人数のゼミ形式の教育などを行っていることは、教育の質の向上が図られている点で、優れていると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に向け、従来の研究分野の枠にとらわれない学際的かつ先端的複合研究を積極的に推進する」について、千葉県等の地方自治体、かずさDNA研究所、放射線医学総合研究所等との連携が進められ、学際的かつ先端的複合研究を積極的に推進し、着実に成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「産官学連携による研究活動を総括的に推進する体制を確立する」としていることについて、産学連携・知的財産機構を設置するなど、産学連携推進のための体制作りに注力し、国立大学では2番目に学内型技術移転機関（TLO）の承認を得たことは、研究成果の社会への還元を推進する体制を確立している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「全国共同利用施設である真菌医学研究センターは、病原微生物のナショナルバイオリソースセンターの機能を持つ全国的かつ国際的な中核機関として、真菌感染症に関する研究を推進するとともに、真菌バイオテロ対策の基礎研究に取り組む」について、真菌医学研究センターは、ナショナルバイオリソースプロジェクト病原微生物の中核機関として、真菌感染症に関する研究を推進し、主要な病原真菌約13,400株、放線菌約1,200株を収集・保存し、国内の関連領域の研究者等に提供できる体制を整備していることは、優れていると判断される。

(III) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「千葉県・千葉市等と連携協力し、地域における保健・医療・福祉サービスの質の向上を図るため、関連部局の目標に応じた活動を推進する」について、教育学部による「地域住民や学校を中心とした救急蘇生、一次処置のための解説講演」、法経学部による「千葉県医療 ADR 立ち上げ支援」、医学部等による「NPO 千葉医師研修支援ネットワークの立ち上げ」等、各部局の特性を活かした様々な地域貢献プロジェクトを実施していることは、地域における保健、医療、福祉サービスの質的向上に貢献している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標「国際的競争力ある大学を目指し、活発な国際交流を展開し、高等教育及び学術研究の拠点としての国際的責任を果たすとともに、地域の国際性の向上に貢献する」について、「千葉大学国際化の指針」の作成、千葉大学校友会海外支部ネットワークの形成、上海交通大学（中国）との特別選抜制度の実施、千葉大学中国オフィス（北京）の開設等、大学の国際化を積極的に推進していることは、特色ある取組であると判断される。

(2) 附属病院に関する目標

臨床研修の充実のため、協力型研修病院の追加、研修到達度の評価、責任者との個別面談等を実施し、質の高い医療人育成に努めている。また、臨床治験においても「臨床

試験部」を設置し、医師主導の自主臨床試験の実施を行うとともに、治験コーディネーター養成プログラムの受入れを推進している。診療では、院内ウェブサイトを経営広報を開設し、診療報酬請求額や医療経費等の経営情報を掲載するなど、職員へ情報発信を行い、意識向上を図っている。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 教育・研究面

- ・ 臨床教授制度を有効に活用したことにより優れた指導者を確保し、卒後臨床研修の改善・充実を図っている。
- ・ がんプロフェッショナル養成プランの「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」プランが採択され、薬学部・看護学部、放射線医学総合研究所、千葉県がんセンター等と連携協力を図りながら、広域的な教育・研修環境の提供に取り組んでいる。
- ・ 末梢血管閉塞疾患に対する再生治療、花粉症に対するワクチン療法、肺がんに対する NKT 療法等の研究を推進している。

○ 診療面

- ・ 「千葉県 HIV 診療中核拠点病院」、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、社会的・地域的ニーズの高い医療に対応した取組を行っている。
- ・ 臓器別診療科を中心とした専門的な診療体制と総合診療部を中心とした組織横断的な総合的診療体制を充実させるとともに、感染症管理治療部等を設置し、良質な医療を提供している。
- ・ 患者満足度調査の実施、入院患者給食への選択メニューの導入、患者待ち時間短縮への取組、病院機能評価の認定等、医療の質の向上及び患者サービスの充実に努めている。

○ 運営面

- ・ 副病院長の増員、企画情報部等の設置、外部からの経営コンサルタントの配置等、病院の管理運営体制の充実を図っている。
- ・ 平成 19 年度に病院長の裁量により、有期雇用制度を活用し、コメディカルスタッフ（理学療法士、臨床工学技士等）10 名を採用して診療体制の充実に取り組んでいる。
- ・ 病床稼働率、患者紹介率等、収入増収のための具体的な数値目標を定めて、目標達成のために対策を講じるとともに、ヒアリングの実施、阻害要因の原因分析等を行い増収に努めている。

（3）附属学校に関する目標

附属学校は、社会のニーズに応じた児童生徒の人間形成及び学力の向上の実現を図り地域における先導的な役割を果たすとともに、教育実習等の実効性を高めることによる教員養成の質の向上を目指している。

特に、新たに開設された「教育援助体験」の授業において、3年次で実習を終えた学生を附属学校で受け入れ、現場体験を重ねることができるよう協力し、また大学院学生の研究的実習も附属学校で受け入れ、授業実践を通じた研究支援をするなど、附属学校を活用した教員養成が積極的に行われている。

また、附属学校にカリキュラム開発と学習指導法開発を支援する拠点を形成し大学教員と附属学校教員が共同で実践的研究を図っており、連携研究に関する組織体制が確立している。

平成16～19年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 附属学校園長や学部教員からなる附属学校委員会に「連携研究推進ワーキンググループ」を設置し、一体的な研究主題の設定、研究を支える人的・経済的支援体制の在り方の方向性を示している。さらに、平成17年度には、「附属学校の研究に関する検討部会」を設置し、附属学校と大学の連携研究の在り方についても検討を進めるなど、学部教員と附属学校教員の連携研究の推進が図られている。
- 平成17年度にカリキュラム開発と学習指導法開発の実践及び研究を支援する拠点としての学校教育支援ステーションを附属中学校内に設置し、附属学校長及び附属学校教員、学部教員、大学院学生が運営を行っている。数学教育においては、附属中学校の教員と大学院生が授業を展開しながら教材開発を重ね、その成果を附属中学校教員、学部教員、大学院学生が毎年、数学教育学会で発表している。

II. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 学長裁量経費について、部局長及び学生との懇談会での意見等も踏まえつつ、教育研究基盤設備充実経費、教育研究環境等整備経費等、全学的な視点から重点的に配分するとともに、平成 18 年度より、学術推進企画室において、学長裁量経費が効果的に配分されていたのかを検証・評価し、次年度に反映させる仕組みを構築している。
- 任期制の適用を受けない全教員を対象に、教育研究等の活動実績を一定期間ごとに再審査して評価する仕組み（再審査制）について、「千葉大学教員の定期評価に関する規程」を制定し、平成 20 年度から施行することとしている。
- 優秀な非常勤職員について、国立大学法人等職員採用試験によらず、学内公募により募集を行い、作文、面接による選考により、常勤職員へ雇用することができる制度を整備し、これまで 3 名を雇用している。
- 学長と教職員の懇談等での質問・要望を受け、平成 18 年度から教職員、学生、留学生、外国人研究者等の仕事と育児の両立を支援するため、「やよい保育園」を学内に開所している。
- 千葉大学が目指す大学の未来像について、地球的な視野を背景に、多様な国家・国民・民族文化への敬意を基底に据え、地域や社会に貢献できる人材を輩出していくために「グローナカルユニバーシティ」を掲げ、商標登録している。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 23 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 産学官連携コーディネーター等による技術相談、ウェブサイトを活用した各種情報提供等を積極的に取り組んだ結果、平成 15 年度から平成 19 年度にかけて受託研究、共同研究、奨学寄附金の採択件数及び金額が大きく増加しており（1,358 件→1,910 件、17 億 4,063 万円→29 億 3,993 万円）、外部資金比率は 6.1%（対平成 16 年度比 1.0%増）となっている。
- 平成 18 年度に学生、留学生の支援や教育研究環境の整備を推進するために「千葉大学基金」（平成 19 年 6 月からは「千葉大学 SEEDS 基金」へ名称変更）を設置し、「広報・募金活動に関する懇談会」の開催及び基金担当の副理事を民間から任命するなど、積極的な基金活動を展開している。
- 外部委託による省エネルギー診断の実施、「光熱水料節減プロジェクトの部局リーダー会議」の設置、「総合解析システム」によるリアルタイムでの電気使用量の確認、病院を除くすべてのキャンパスにおいて環境マネジメントシステム（ISO14001）の取得等により、光熱水料等が 8,069 万円（対平成 16 年度比 6 %減）節減されている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載 12 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 学術評価企画室が主導となり全教員に「目標設定・評価カード」の作成を義務づけ、活動目標を自主的に設定し、当該目標の達成度について自己評価を行い、教育・研究等の業務に係る自己啓発及びスキルアップを図っている。
- ウェブサイトにおいて、卒業生と在学生との情報交流の拡大と促進、卒業生から在校生に対する就職活動支援等を目的として、学生及び卒業生並びに教職員間のコミュニケーションツール「Curio」を導入している。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載 6 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

- ① 施設設備の整備・活用等
- ② 安全管理

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 千葉大学における環境に配慮した取組や関連教育研究活動の成果と課題について、学生が主体となってまとめた「千葉大学環境報告書 2007」を公表し、各種の環境関連活動表彰を受賞している。
- インドネシア・ジャワ島地震の際、交流協定校への調査団の派遣及び救済支援を行ったことを契機に、医師、看護師、広報・情報、自然災害、建物被害、NBC（核兵器、生物兵器、化学兵器）災害の関連分野の専門家で構成する災害調査団を学内に組織し、大規模災害等の調査等に協力する体制を整備している。
- 研究費の不正使用防止については、会計規程、会計細則、公的研究費の適正な取扱いに関する規程の制定、検収センターの設置等を行っている。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 16 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。